

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後 平成 21 年 3 月 17 日 作成
 20年度決算把握後 平成 21 年 5 月 14 日 作成

総合計画体系	事務事業名	学校基本調査事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	企画財政課	担当者名	中村 奈利
	基本事業	84	広聴・広報機能の充実			所属班	政策企画班	(内線)	1242
					法令根拠				統計法、学校基本調査規則

予算科目	会計	1	款	2	項	5	目	2	事業連番	11049	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	12	
														コスト削減優先度評価結果	6

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 S23 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
【事業の内容】
 市内全ての学校(小学校7校、中学校3校、幼稚園3校)を対象とした、学校基本調査に関する事業である。
【業務の流れ】
 ・4月、各学校への調査票の配付・回収
 ・5月、回収後の内容審査及び県への提出
 ・翌年2月に報告書が完成
【主な予算費目】 需用費

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)	20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)
	・市町村説明会への出席(4月) ・調査関係書類の配付・回収(5月) ・調査関係書類の審査・整備(5月)	・市町村説明会への出席(4月) ・調査関係書類の配付・回収(5月) ・調査関係書類の審査・整備(5月)
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	学校基本調査	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア データ照会件数 件 イ データ検討、審査案件数 件
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	学校毎に正確に実施される。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 対象学校数 校 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	いつでも行政情報を入手できる いつでも行政に意見を言える	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 正確に実施できなかった学校数 校 イ
		⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 行政情報を入手している市民の割合 % イ 行政に意見を言う機会が十分にあると思う市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 目 標 合 計 数 計 画 22 年 度	
		都道府県支出金	千円	13	15	15	15	15	15		
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	13	15	15	15	15	15	15		
	うち指定経費	千円	13	15	15	15	15	15	15		
	うち時間外、特殊勤務手当	千円									
	人件費										
正規職員従事人数	人	2	1	1	1	1	1	1			
延べ業務時間	時間	64	80	80	80	80	80	80			
(B)人件費計	千円	254	318	318	318	318	318	318	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	267	333	333	333	333	333	333	0		
活動指標	ア 件 イ 件		15 1	15 1	14 1	13 1	13 1	13 1	13 1	13 1	
対象指標	ア 校 イ 校		15 1	15 1	14 1	13 1	13 1	13 1	13 1	13 1	
成果指標	ア 校 イ 校		0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
上位成果指標	ア % イ %		81.4 6.3	80.6 8.9	83 9	80.4 10.1	84 10	85 10	85 10	85 10	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
 統計法施行令(昭和24年政令第130号)及び学校基本調査規則(昭和27年文部省令第4号)に基づき昭和23年から毎年実施されている。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
 平成19年度より希望する学校に対しては、パソコンによる電子調査票による記入、提出が導入された。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
 学校基本調査をはじめ、各種統計調査によって把握されたデータの活用について、市議会の常任委員会で質問があり、本市が取り組む行政評価のマネジメントシートの各指標として活用することを回答している。

事務事業名	学校基本調査事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 意図の「学校毎に正確に実施される。」ことにより、結果の「いつでも行政情報を入手できる」「いつでも行政に意見を言える」に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 統計法に基づく指定統計調査(H21年4月より基幹統計へ名称変更)であり妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 対象意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 現在可能な限り効果的、効率的な手段をとっている。但し、現状の水準を維持するものとする。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 国の指定統計調査(H21年4月より基幹統計へ名称変更)のため、廃止・休止は出来ない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似の調査は無い。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 県から交付された必要経費の範囲で事業を行っている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 最小限の人数で、可能な限り効率的な業務を行っている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 統計法に基づく指定統計調査(H21年4月より基幹統計へ名称変更)であり、公平である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	→

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 国の指定統計(H21年4月より基幹統計へ名称変更)のため廃止・休止はできない。効果的効率的に処理しており、削減・改善の余地はない。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																	
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持 低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持 低下			
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上		○															
	維持 低下																	

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策				
-----------------------------------	--	--	--	--

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	9	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	11	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)